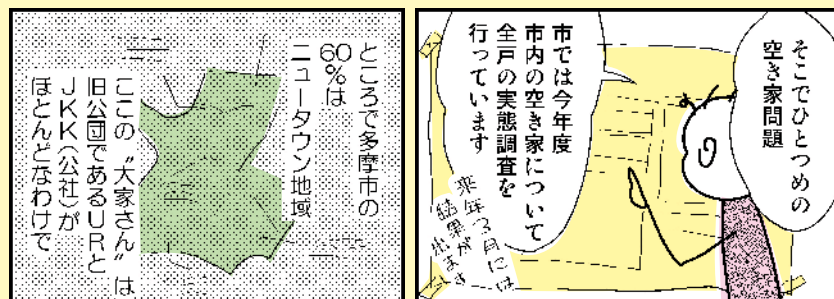


## わがまちリフォーム諸事情 — 一般質問

パルテノン多摩(略:パル多摩)の改修計画は相変わらずの大問題ですが、私たちのまちの再編・再生アイテムはまだただそれだけではありません。というわけで——

好評・タンバリン通信  
スペシャル編です!



1

そもそもかつての多摩村、そして多摩町がニュータウンを擁する多摩市へと生まれ変わっていったのは、国と東京都による住宅政策を展開する場に選ばれたからです。最近あまり言及されなくなりましたが、当初は“実験都市”という言い方もよく耳にしました。

多摩市政が始まって44年。その“実験”の結果はどうだったでしょう。一次入居者の子ども世代が大人になった時、多くは市外に流出してそのまま他所に根を張りました。核家族二世が実家に帰り、まちの未来を繋いでくれるという初期設計は、見事に外れてしまったのです。国内でいち早く高齢化と孤独死が話題になったのも多摩市でした。

バブル崩壊やリーマン・ショックなどの痛手を経て、国の情勢もずいぶん変わりました。しかし市の成り立ちを考えれば、今後も国や都には責任をもってこのまちを見守っていったいと思います。

もちろん市側もそういう働きかけは怠らないということですが、私たちも引き続き国と都、URやJKKの協力を求めています。



## ◆2種類の陳情をめぐって——健康福祉常任委員会

今回は、これまで継続審査としてきた3本の陳情について審議しました。

- ① 重度訪問介護に関する陳情(6月から継続)
- ② 多摩市における、バランスのとれた受動喫煙防止対策を求める陳情(9月から継続)
- ③ 多摩市における受動喫煙防止に関する陳情(9月から継続)

①は重度障害をお持ちの方が、スポーツなど趣味活動のための外出時に2名の介護者を認めてほしいというもの。「健康まちづくり」をめざす多摩市がこのような希望を退けることはあり得ない、という立場で採択の意見討論を行いました。結果は趣旨採択となりました。

②と③はどちらも「受動喫煙防止の法的規制をしないほしい」というもので、私は健康被害の実態を見逃せないという理由で不採択の意見を述べました。委員会の結論も不採択となり、これから受動喫煙防止条例づくりに関する研究を行う予定です。